１．開会及び閉会に関する事項
開会　令和８年1月２３日（金）午前１０時００分
閉会　令和８年1月２３日（金）午前１１時３０分

２．案　　件
付議事項

議案第１号　根室市教育支援委員会委員の解任及び委嘱について
【非公開】審議の結果、原案どおり決定
議案第２号　令和７年度根室市スポーツ賞並びに根室市スポーツ奨励賞受賞者の選考に係る諮問について
【非公開】審議の結果、原案どおり決定
議案第３号　令和７年度教育費補正予算案を市長に提出することについて
【非公開】審議の結果、原案どおり決定
議案第４号　令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
【非公開】審議の結果、原案どおり決定
報告第１号　事務の臨時代理の報告について
【公　開】審議の結果、原案どおり決定

その他

１．令和８年度予算要求の状況について

～資料に基づき説明～

＜教育長＞
ただいまの令和８年度予算要求の状況について何かご意見ご質問等ございますか。

＜委員＞
体育施設設備について質問ですが、根室市内色々な体育施設設備があると思いますが整備をしていく順番というのはどのように考えておりますか。

＜スポーツ課長＞
体育施設・公共施設・社会教育施設・社会体育施設については長寿命化計画というのがあり、基本的にはそれに準じて行いますが、例えばＬＥＤや補給を要するものというのはどうしてもあると思いますが、それから老朽化が著しくなったりするので、順番を組み換えながら見極めて進めているような状況が長年続いております。
今年度でいきますと武徳殿が非常に古い施設ですが、柔道や空手・剣道で利用者が多いので具体的にトイレ等の要望もあり今年度着手しておりますので、そういったこともコツコツと進めております。

２．教育行政についての意見交換について
＜委員＞
スケート事業についてですが根室市では今２、３回実施していると思いますが、毎年各家庭は２万円程するスケート靴を購入しなければいけないという状態で、スケートをやったことがないという先生も非常に多いらしく、なかなかスケート事業が厳しい状況と思います。
札幌市でもスキーを実施していると思いますが、スキーをする学校も半分くらいに減っているということです。
そういった風に今の根室の冬はスケートだけに限らなくても良いのではないかなと個人的には思っております。

＜教育部長＞
　スケート靴についてですが、実際のところやはり２万円程かかってしまいます。
　年に２、３回使用するために購入するということについても、子どもの成長により足のサイズも大きくなっていきますので、今考えておりますのが市の方でスケート靴を貸出できないかというところです。
　最近温暖化の影響もありスケートリンクが開けないという日もあり、場合によっては１回も出来ず新品のまま靴のサイズが小さくなってしまうということもありますので、そこは何か気軽に出来るスポーツの振興という部分も含め何か出来ないかなというところで考えております。

＜委員＞
　釧路市では交換会みたいなものもやっていますがそういうものはないでしょうか。
　また、市の方で使い終わったスケート靴を寄付してもらう声掛けをする等、うちも釧路でリユースショップをしているのでホッケーでしたらこの時期になると売れるのですが。
　昔はスピードスケート以外認められていませんでしたが、最近ですとフィギュアスケートを履く方も増えてきております。

＜教育部長＞
　学校現場でもスピードスケートに限らずアイスホッケーやフィギュア等でも初めてやるとしたら履きやすいのではないかと思います。

＜委員＞
　もしそういう貸出でしたらホッケーも選べるような選択があっても良いのかなと思います。
　不要になったスケート靴は、売るか保管するか譲るかしかないと思いますので、それでしたら寄付していただくことによってメンテナンスをして貸出をするのが予算的には一番よいのかなと思いました。

＜教育長＞
　その他になにかありましたらお願いします。

＜委員＞
　私の中では常に根室の自然と触れ合わないとこの地域に戻ってくる子供は少ないのかなという思いが基本的にはあります。
　実施できるかどうかは別として、例えば地引網体験や市の探索をして花等も学べるような事業が多ければよいのかなと思います。
　外で遊ぶ子供が少なく地元のことを知らないというところもあると思いますので、そのような体験が出来ると少しなりともこのふるさとという思いが強まるのかなと常々感じております。

＜教育長＞
　去年あたりから感じていますが根室の子供たちは絵を描くのが上手で、細かい描写が出来ると思います。
　なぜかと考えたところ、ゆったりとした時間の中で自然や風景をじっくりと観察する能力があると感じました。
　ですので、そういったところも大事にしていきたいなと思っております。

＜委員＞
　今週バードランドフェスティバルをやると思いますが、鳥が凄く世界から注目されているということで、野鳥の写真を撮ってくるという課題があっても面白いのではないかなと思っております。
　鳥の名前を覚えていくことも凄く親しみも沸くのではないかなと思います。
　また、知っていると自然に対しても身近に感じられるのかなと思います。

＜教育長＞
　その他になにかありましたらお願いします。

＜委員＞
　最近感じていることですが、今の高校生の子達何人かしか触れ合うことがないのですが凄く勉強をしてい

るという印象です。
　勉強をすることはもちろん褒められるべきことと思いますが、一生懸命勉強をして他のやりたいことが出来ないくらい凄く勉強をしなければならない感じになっていると思います。
　去年、一昨年と進学率等が良い感じでしたので学校の先生もそれをキープさせたいと思い凄く頑張っていると思いますし、もちろん勉強させることが悪いわけではないですが他の自分の勉強以外のアイデンティティになるようなこととかが、やりたいのに出来ない状況になっているという子が何人かおります。
　そういう話で一生懸命勉強をしているけれど他のしたいことが出来ないという状況が学生として悪いと一言で片づけられなくて、高校生だから良いのかなとも思いつつ、良くないのかなと思うところもあり、そういう面もあり中学生・小学生を見ると結構自主的な学習という感じで凄くのびのびと、違う言い方ですとゆるい感じの勉強なので凄くそこに差が感じられるように思います。
　小中学校の時に先程言ったような自然に親しむ等、そういう体験を沢山出来るからメリハリがついて高校からしっかりと勉強が出来るのかなとも思いながら、やはり勉強大切で進学ももちろん大切ですがそれ以外の自分を作る要素も大切だと思いますので、その高校生活もどうかなとも思いますし、高校に入学していきなりそんな勉強をしなければならない状況であれば小中学校から上手く繋がるように勉強もしていった方がよいのかなと感じております。

＜教育長＞
　今、ちょうど中央教育審議会というところで次の学習指導要領、要するに令和８年度中に方向性が出され実施するのが令和１２年度ということになり、その方向をどうにかしようということで令和９年度ですけれども、おそらく協議の内容を見ていると今目指しているような、自分で決めて、自分で選んで、自分で学ぶというところです。
　ところが今までのその勉強と大学受験というのはどうしてもやはり覚えることが中心で今高校生あたりがちょうどその過渡期になり、その中央教育審議会の中では高校の内申書も不要なのではという議論になっております。
　今現在北海道内は内申書がありますが、出席日数というのもコロナ以降書かなくても良いことになっております。
　今後１０年あたりでおそらく劇的に高校入試、大学入試の状況は変わると思います。
　その辺の国の議論も踏まえて方向性としてはやはりこのインクルーシブの理念の方に一層進めていきますという中で、自然の感性やそういったことも大事にしていきましょうというような方向性になると思います。

＜教育長＞
　その他ございますか。
　以上で令和８年第１回教育委員会の会議を終了します。

（１１時３０分　終了）